



第274号

2011年(平成23年)11月1日

大臨技ニュース

〒543-0018
大阪市天王寺区空満町 8-33
大阪府医師協同組合東館 4 階
TEL.06-6763-5652 FAX.06-6763-5653
社団法人 大阪府臨床検査技師会
発行責任者: 今井 宣子
大臨技ホームページ URL
http://www.osaka-amt.or.jp/



府民公開講座 第4回 緊急検査部会

評価点

基礎教科-20点

(会員証をお持ちください)

※評価点=日臨技生涯教育点数

Theme

「Influenza&Outbreak&Pandemic」

～迅速検査を行わずにタミフルを処方してはいけないのか～

第4回緊急検査部会は、昨年世界的に大流行となり、日本国内でも毎年10000人以上が亡くなるという「インフルエンザ」について取り上げ考えてみようと思います。

臨床医より全例インフルエンザ検査をすべきか否か、インフルエンザ迅速検査陰性の患者はタミフルを内服してはいけないのかなど、インフルエンザの問題に焦点をあてたお話、そして臨床検査技師より迅速検査キットの正しい選び方や薬剤師から抗インフルエンザ薬についてわかりやすいお話を予定しています。

なお、当勉強会は検査技師だけでなく、一般府民の方や他職種の方の参加も大歓迎です。皆様お誘い合わせのうえ多数ご参加くださいますようお願いいたします。

- 日 時 平成23年11月26日(土) 14:30～16:30
- 会 場 あべのメディックス 6階ホール
- 参加費 無料
- 連絡先 大阪府立泉州救命救急センター 福田 篤久
TEL: 072-464-9911
Email: atsuhisa@sccmc.izumisano.osaka.jp

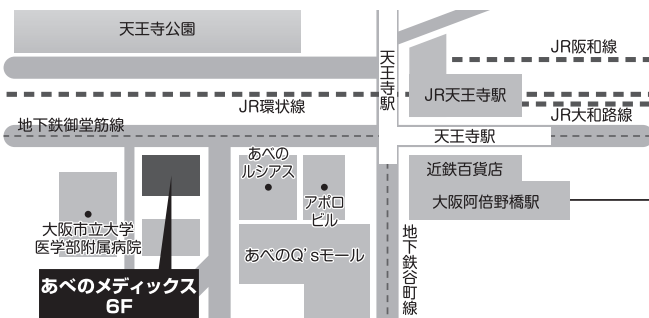
プログラム

【一般講演】

1. インフルエンザ迅速診断キットの選択は、どうされていますか?
講 師: 岸和田徳洲会病院 臨床検査科 櫛引 健一
2. 抗インフルエンザ薬
講 師: 大阪府済生会野江病院 薬剤部 早川 幸宏

【特別講演】

- Influenza in wonderland
不思議の国のインフルエンザ診療
講 師: 京都府立医科大学附属病院 小児科 佐々木 真之



公開講座 平成23年度 手話講演会

評価点

基礎教科-20点(会員証をお持ちください)

※評価点=日臨技生涯教育点数

Theme

「相手の心に一歩近づくコミュニケーション」

講師: はたらく心をトータル・サポート 保健師・心理カウンセラー 徳永 京子



「視力や聴力に障がいのある人たちは、受診時にどんなことを求め感じているの?」

きっと我々だけでは気づかないことや、ちょっとしたことで改善できるようなことがたぶん多いのでは無いでしょうか。

コミュニケーションのあり方について考える... 堅苦しく聞こえますが「心♥を伝えること」を大切にしてきた徳永先生の講演は、いつも温かく和やかな雰囲気です、我々でも出来る何かを必ず見つけることが出来ます。

検査技師だけでなく医療に関わる多くの人に聞いていただきたい講演ですので、自施設でお誘い合わせのうえ、多数のご参加をお待ちしています。

- 日 時 平成23年12月3日(土) 14:30～16:30
(受付: 14:00より)
- 会 場 大阪医療技術学園専門学校
地図▶6ページ 微生物検査部門記事 参照
- 参加費 無料
- 連絡先 財大阪府警察協会大阪警察病院 赤木 征宏
Email: biseibutsu@oph.gr.jp

平成23年度 乳がん検診フォーラム

評価点

基礎教科-20点(会員証をお持ちください)
※評価点=日臨技生涯教育点数

プログラム

13:30～ 受付開始

14:00～

【教育講演】

●マンモグラフィー検査

司会：(社)大阪府放射線技師会 牧島 展海

『少し知るともっと知りたくなるマンモグラフィーの基礎知識』

講師：東豊中渡辺病院 診療放射線技師
山下 純子

●超音波検査

司会：大阪市立大学医学部附属病院 藤岡 一也

『教えて 乳房超音波検査』

講師：住友病院 尾羽根 範員

【特別講演】

司会：大阪大学医学部附属病院 吉村 英雄

『画像からみた乳癌の病理』

講師：大阪府済生会野江病院 病理専門医・
細胞診専門医 桜井 孝規

- 日 時 平成23年11月19日(土) 14:00～17:00
- 会 場 大阪府医師協同組合本館 8階大ホール
- 参加費 無料
- 主催 (社)大阪府臨床検査技師会
(社)日本臨床衛生検査技師会
- 後 援 日本臨床細胞学会大阪府支部細胞検査士会
- 連絡先 市立豊中病院 清水 隆之
Email: akane@mub.biglobe.ne.jp



他職種公開講座 第1回 北支部地域オープンセミナー

評価点

基礎教科-20点(会員証をお持ちください)
※評価点=日臨技生涯教育点数

『検査と薬 ～感染症領域における臨床検査技師と薬剤師の役割～』

検 査と薬は密接な関係にあります。携わっている検査技師と薬剤師のコミュニケーションは、うまく図れているでしょうか？感染症やTDM、施設によっては輸血業務など多くの分野において共有すべき情報があるはずです。

そこで、今回の北支部自由集会は地域オープンセミナーとして、検査技師と薬剤師のコミュニケーションの向上を目的に、大阪病院薬剤師会との合同企画としました。感染症を題材として、検査側からは、診断ツールである細菌検査の利用方法や簡易迅速キットの性能、炎症マーカーの見方などについて話してもらいます。また、薬剤師の先生には、抗生剤とはどんなものか、そして抗生剤の使い方について分かりやすく紹介していただくよう願っています。

診断と治療に深く関わる両部門の相互理解を深める良い機会になると思っていますので、みなさんの参加をお待ちしています。



日 時

平成23年12月3日(土) 15:00～18:00

会 場

大阪医科大学 PA会館(新講義実習棟)1階 P-101講堂
※いつもと講堂が異なりますのでご注意ください。
(高槻市大学町2-7、阪急高槻駅徒歩2分、
またはJR高槻駅徒歩10分)

参加費

500円

連絡先

北支部長 竹下 仁(大阪府三島救命救急センター)
Email: takesita302@osaka-mishima.jp



他職種公開講座

血液検査部門 特別講演会

評価点

専門教科-20点 (会員証をお持ちください)

※評価点=日臨技生涯教育点数

今年の特別講演は今まであまり取り上げてなかった、血小板減少症について講演していただきます。

診断や治療など解りやすく講演していただきますのでふるってご参加ください。

血小板および凝固・線溶系は、生体内の止血機構において重要な役割を果たしています。

なかでも血小板は一次止血に関わっており、その機能が破綻すると時に重篤な出血症状を引き起こします。本講演では、血小板減少を引き起こす代表的な疾患である特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) に焦点をあて、その病態について解説するとともに、診断および治療に関する最近の話題をいくつか紹介します。

- 日 時 平成23年11月19日(土) 14:30~16:30
- 会 場 あべのメディックス 6F
- 参加費 500円(一律)
- 共 催 堀場製作所
- 連絡先 大阪厚生年金病院 稲田 孝
TEL: 072-840-2641 (内線 298)

内 容

1. 「NICU,ICU, 緊急検査室など臨床現場で役立つ血球計数装置のご紹介」
講師：株式会社堀場製作所 医用事業戦略室 斉藤 憲祐
2. 「血小板関連病態の診断と治療：最近の話題」
講師：関西医科大学 内科学 第一講座 主任教授 野村 昌作

★★10月号の予告案内とは日程が変更になっております。ご注意ください。★★

Information

学術部 輸血検査部門からのお知らせ

輸血検査症例検討会

評価点

専門教科-20点 (会員証をお持ちください)

※評価点=日臨技生涯教育点数

「こんな時はどうしたらいいのだろう?」と悩ましい時、ありませんか?

それぞれの症例についてまず症例提示の説明後、グループごとにディスカッションを行なったのち、解説をします。

今回は3症例の検討を予定しています。

日常業務で対応に難渋する症例の解決の参考にいただければと思います。

皆様の参加をお待ちしております。

- 日 時 平成23年11月5日(土) 14:00~17:00
- 会 場 大阪府赤十字血液センター 7階 研修室
- 参加費 500円
- 問合わせ先 「件名」を「症例検討会問い合わせ」として下記アドレスへメール送信又は電話でお問い合わせください。
Email: yuketsu-osaka@mail.goo.ne.jp
TEL: 06-6372-0675 (大阪府済生会中津病院 深田恵利奈)

内 容

- 症例1 不規則抗体が陽性で適合血が見つからない症例
講師：岸和田徳洲会病院 臨床検査科 櫛引 健一
- 症例2 ABO血液型が判定できない症例
講師：大阪医科大学附属病院 輸血室 志磨 美緒
- 症例3 血小板を輸血しても増えない症例
講師：関西医科大学附属枚方病院 輸血部 大西 修司

Information

学術部 臨床化学検査部門からのお知らせ

臨床化学検査部門 講演会

評価点

専門教科-20点 (会員証をお持ちください)

※評価点=日臨技生涯教育点数



「多点検量の実際について」

講師：極東製薬工業株式会社 営業学術部 技術サービスG 中岡 啓一

自動分析装置で、免疫項目を中心に多点検量は使われています。みなさん、多点検量で分からないこと・困ったことはありませんか?

多点検量の必要性、一点検量と多点検量の違い、多点検量線の引かれ方、多点検量線の性質、多点検量線のトラブルシューティングなど日頃の疑問に答えてもらえるような講演をお願いしています。

様々なお悩みを解消してみませんか?ぜひとも、みなさまふるってご参加ください。

日 時

平成23年11月10日(木) 18:30~20:00

会 場

大阪市立大学医学部 4階小講義室1

参 加 費

700円

問 合 せ 先

大阪市立大学医学部附属病院 中央臨床検査部 石田 繁則

TEL: 06-6645-2215

Email: shigei@msic.med.osaka-cu.ac.jp

チーム医療部門 糖尿病療養指導部会 定例勉強会

評価点

基礎教科-20点(会員証をお持ちください)

※評価点=日臨技生涯教育点数

内容



1. 糖尿病教室の紹介 シリーズその2
講師：住友病院 佐藤 直美
2. 「糖尿病と血圧脈波検査について(仮題)」
講師：松下記念病院 江後 京子

- 日時 平成23年12月14日(水) 18:30~20:00
- 会場 大阪鉄道病院 3階講堂
(JR天王寺駅、地下鉄御堂筋線・谷町線天王寺駅、
近鉄阿部野橋駅 徒歩5分)
- ※会場の入口で臨床検査技師会会員の提示の協力をお願いします。
- 参加費 500円(一律)
- 連絡先 ふくだ内科クリニック 横山 有子
Email: ar-ykym@mua.biglobe.ne.jp



糖尿病療養指導士認定のための更新単位(第1群):0.5単位
(CDEJの方で認定機構発行の「学会・研修会出席証明書」の
必要な方は各自持参して参加証明印をもらってください。)



多職種合同ICT研修会 ~多くの職種で構成するセミナーです。

- 日時 平成23年12月10日(土) 13:30~16:50
- 会場 大阪府病院年金会館コンベンションルーム
(大阪府大阪市天王寺区六万體町4-11
地下鉄谷町線四天王寺夕陽丘③出口)
- 参加費 500円
- 対象 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師



「ICT活動の現状と未来
~これからの感染制御について語ろう!~」

- 講師
- I C D: 大阪警察病院 水谷 哲
 - I C N: 市立堺病院 上山崎 みちる
 - BCICPS: 関西医科大学附属香里病院 河野 えみ子
 - I C M T: 県立西宮病院 幸福 知己

大阪臨床検査 ISO 15189 研究会 第9回 大阪臨床検査ISO15189研究会のご案内

平成23年6月の時点で国内でのISO15189認定施設は59施設になり、着実に認定施設が増加している現状です。
今回の研究会では、ISO15189でも重要な安全管理対策として、採血室および情報システムについて取りあげました。
またISO15189認定関連では、取得経験および最新情報についてご講演いただきます。
認定取得を検討中の施設の方はもちろん、ISO15189に関心のある方は、ぜひご参加いただけますようお願い申し上げます。
また、今回の好評であった意見交換会を設けておりますので、こちらにもふるってご参加くださいますようお願いいたします。

- 日時 平成23年12月10日(土) 14:00~19:00
(13:30開場)
- 会場 大阪医科大学 新講義実習棟 1F 101号室
地図▶2ページ 北支部自由集會記事 参照
- 参加費 500円
- 主催 大阪臨床検査ISO15189研究会
- 共催 大阪府臨床検査技師会
- 後援 財団法人日本適合性認定協会(JAB)
- 連絡先 世話人代表 大阪医大病院中央検査部 井口 健
Email: kenmie@ruby.famille.ne.jp

プログラム

1. 安全管理対策(採血室、情報システム)
「医療における情報セキュリティ対策」
講師:トレンドマイクロ株式会社 松山 征嗣
「採血室管理におけるRFID検体情報統括管理システムの
有用性」
講師:株式会社テクノメディカ 平沢 修
2. ISO15189認定関連
「チーム医療と検査室マネジメント、そしてISO15189」
講師:金沢医科大学病院 山崎 美智子
「ISO15189における最近の動向」
講師:公益財団法人日本適合性認定協会 下田 勝二
3. 見交換会 17:00~19:00
大阪医科大学地下食堂

評価点

基礎教科-20点(会員証をお持ちください)

※評価点=日臨技生涯教育点数
医療情報技師更新ポイント 1点(予定)

大阪臨床検査ISO15189研究会ホームページ
URL: <http://www3.famille.ne.jp/~kenmie/iso.html>



- ①『肺炎球菌性肺炎と尿中抗原迅速検査』
- ②『Clostridium difficile 感染症 (CDI)』

①「肺炎球菌性肺炎と尿中抗原迅速検査」

呼吸器感染症の中で特に肺炎は重要な疾患であり、その診断法としては培養法が gold standard であるが、その他に血清抗体価測定、遺伝子検査、病原体抗原検出などが用いられている。

とくに、1970年代から報告されていた尿中への病原体抗原の排出は血中抗原の濃縮を意味し診断的意義は高く、重症肺炎の原因菌としてとくに重要な肺炎球菌とレジオネラに対する尿中抗原検出キットが「いつでも、どこでも、だれにでも、でき、しかもすぐに結果がでる」ということで、国内外で広く臨床の場で使用され、高い信頼をうけている。初期治療に役立つ微生物検査として喀痰のグラム染色、培養検査と併用することによって診断率を上げることができ有用な検査として利用されている。

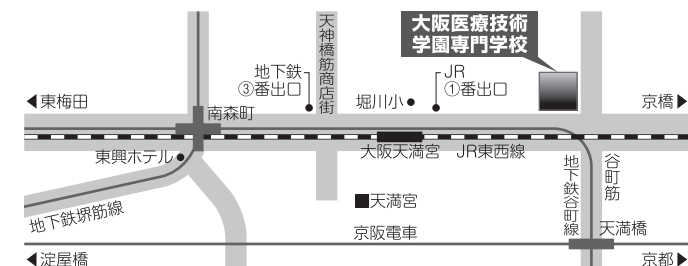
本研修会では、市中肺炎の重症度の判定、喀痰のグラム染色、肺炎球菌性肺炎について治療薬を含め解説する。また、「BinaxNOW 肺炎球菌」使用時における問題点、注意点について述べる。

②「Clostridium difficile 感染症 (CDI)」

最近増加傾向が著しく、また抗菌薬誘発性疾患という性格から、どの診療科・病棟でも遭遇するCDIは抗菌薬・抗がん薬・ステロイド薬等の投与により健常な腸内細菌叢が攪乱され、C.difficileの過増殖、毒素を産生し下痢症/腸炎を発症する。

C.difficileは嫌気性のグラム陽性の有芽胞桿菌で、入院患者や老人ホーム入居者で施設内集団発生が頻発し、同一タイプの菌株が病棟を越えて広がっており、院内感染の原因菌として重要である。

本研修会では、概論、臨床症状、検査法、診断、治療、予防、新しい検査の進め方について、分かり易く解説する。



- 日時 平成23年11月22日(火) 18:30~20:00
- 会場 大阪医療技術学園専門学校 2階
(〒530-0044 大阪市北区東天満 2-1-30)
- 参加費 無料
- 講師 ①②とも
アリア メディカル株式会社
サイエンティフィック・サポート室 原 哲郎
(財)大阪府警察協会大阪警察病院 赤木 征宏
- 連絡先 Email: biseibutsu@oph.gr.jp

VOICE 臨床検査技師教育機関からの声

臨地実習を終えて

私は大阪市立大学医学部附属病院で臨地実習をさせていただき、無事4か月の実習を終えることができました。

臨地実習の初日、不安と緊張の中、病院に向かったことがつい最近のように思えます。お忙しい中、時間を割いて丁寧に教えてくださり本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

臨地実習では、今まで教科書でしか学んだことのなかった内容をたくさん実習しました。その中で最も印象的だったのは、学校の授業だけではあまり正確に理解できていなかった間接蛍光抗体法による抗核抗体検査です。抗核抗体の判別の際のポイントなど教科書には載っていない内容も細かく教えて下さり、沢山の症例を実際に鏡検させていただき、大変勉強になりました。また、このような応用的・実践的な実習をすることで、基礎がいかに大切かということも改めて気付きました。

この4か月で学んだことすべてが大変貴重で、一生の宝となりました。それは勉強面だけでなく、実際に現場で働いて

おられる臨床検査技師の方々から、社会人そして医療従事者としてのあるべき姿も学びました。特に責任感がいかに大切かを知りました。自分の出した検査結果に責任を持つことは決して簡単なことではないと思います。

しかし、私が出会った先生方は医師からも信頼され、やりがいを持って仕事をされていました。めまぐるしく進歩を遂げる医療体制の中で医療チームの一員としての臨床検査技師の役割を学び、これからの自分のあるべき未来像が以前より想像できるようになったと思います。

臨地実習を終えた今、模擬試験や自主学習などを通して、実習前と比べて知識が格段に増えたことが分かります。これも実践的に学ぶことができたおかげです。これからは国家試験に向けて、悔いのないよう日々勉強に励みます。そしてクラス全員で国家試験に合格し、全員が笑顔で卒業できることを目標にし、皆で支え合って夢を叶えたいと思います。

日本医療学院専門学校 臨床検査技師学科3年 吉田 智子

去る平成23年9月10日・11日、心地よい秋晴れの中、吹田市「第28回 みんなの健康展」が開催されました。当技師会が企画している検査体験コーナーは、毎年市民の方々が楽しみに参加されます。今年の内容をご紹介します。肺年齢（肺活量）は保健所と共にCOPD啓発活動として実施し、昨年度の結果を集計したものを掲示しました。頸動脈エコーは3台の装置を使用し、超音波画像を見ながら市民の方にご説明しました。また、血管年齢は加速度脈波を計測し、実年齢との差を話題に盛り上がりました。今年も整理券を採用し、わずかな待ち時間で各体験をスムーズに受けていただきました。

今年は、大臨技が健康展に初参加するために尽力された、元市立吹田市民病院技師長・元大臨技副会長の城尾定廣先生と国立循環器病研究センター副技師長の田中教雄先生が体験コーナーに来られました。市民で賑わい、楽しげに接する技師の姿に、お褒めの言葉をいただき嬉しく思いました。当初のご苦労とその思いを受け継いだ先輩方に敬意と感謝の思いに加え、大臨技の社会貢献の

事業の一つとして継続することの大切さを重く受けとめました。多くのボランティアの協力によって今日まで支えられ、この事業を継続できたことは、皆さんの精神の素晴らしさだと感じています。

健康展の目的の一つに、市民も技師も互いに楽しむことを掲げており、他団体の内容も楽しんでいただく時間を設け、ボランティア終了後には交流会にて技師同士の懇親を深めていただきました。来年も、この素晴らしい事業に参加していただける多くの仲間をお待ちしています。

	血管年齢	肌年齢	頸動脈エコー	合計	ボランティア参加
9月10日	264	219	232	715	19
9月11日	427	366	389	1,182	18
合計	691	585	621	1,897	37



第28回 みんなの健康展に参加して

元市立吹田市民病院・元大阪府臨床検査技師会副会長 城尾 定廣

9月10日（土）11日（日）に開催された健康展に一市民として参加しました。前田富士子北支部副支部長（ガラシア病院）からの熱心なお誘いを受けてのことですが、定年退職して以来ですから、15年ぶりとなりました。

まず驚いたのは参加者がとても多く、会場は熱気にあふれて移動にも苦労するほどです。特に臨床検査技師会コーナーは、市民対象の検査「肺年齢」、「頸動脈エコー」、「血管年齢」とも、何十人もの方たちが順番待ちの行列を作り、会員の皆さんが汗だくといった状態で働いていました。若い会員がほとんどでしたが、みんな生き生きとして笑顔で親切に対応して誠になかやかで活気あふれる雰囲気です。

手元の資料によると、初参加は1987年（昭和59年）の第4回となっています。当時の技師会は、毎年の会員数が急増していて、57年：1600人、58年：1720人、59年：1875人、60年：1969人、61年：2041人となり、昭和60年には、社団法人として認可され、学術活動も含め組織が急速に発展強化を続けつつある時期でした（現在の会員数は、3189人）。

当時、私は庶務担当の理事でしたが、理事会の重要懸案事項として、学術活動のみでなく、他の医療団体との交流強化や、一般市民を対象とする社会的活動への充実などが取りあげられていたものです。

その一つとして、吹田市健康展が開催されていることを知り、この催しに参加することが急速に浮上したのです。私は吹田市の職員でしたから、市担当者との交渉にあたり、色々ありましたがようやく参加の許可を受けました。しかしいざ参加すると、何をどうするかさっぱり検討もつかず、それでも地区会員のみなさんや、理事会・渉法部・組織対策部員の皆さんの絶大な応援をいただき、必死で無我夢中で取り組んだ数年間でした。

手元の古い資料によると、当時府下各自治体でも同様の行事が実施されていました。昭和62年から平成6年にかけて、吹田・茨木・豊中・東大阪・河内長野・摂津・和泉市・岬町などで何らかの形で参加しています。

吹田では、血液型・尿・心電図・超音波検査などを実施して、血液型検査は医師会の承認と協力のもとに、耳朶採血によるA B O型検査に百人以上もの市民の参加がありました。

吹田市の主催団体は、「吹田市健康づくり推進事業団」との名称となり、平成4年には私も「同事業団評議員」として市長に任命され、臨床検査技師会は医療団体として正式に認可されたのです。これは当時としては画期的な待遇であり、私に続き何人かの地区会員に引き継がれ、今は前田さんが評議員として活躍を続けています。また吹田市から補助金も支給されるようになりました。

健康展が終わったあとの反省会には、私の現役当時に一緒に参加していただいた田中教雄先生（国立循環器病研究センター）ともども参加させていただき、若い会員のみなさんと談笑し、また昔の苦労ばなしなども話す場をもうけていただき、本当に楽しく、充実して、元気を取り戻すことができました。話してみると、初参加時にはまだ生まれていなかった若い会員も何人か居て、驚き感激するとともに、初めの頃ともに働き、苦労をして、今は年輩を重ねた会員のみなさん方の地道な活動が、今や花を開き発展していることを実感して改めて感動しました。

今後とも北支部の会員のみなさんの協力を得て、この健康展のますますの発展を期待するとともに、私も今後とも一市民としてぜひとも出席したいと心から願っています。

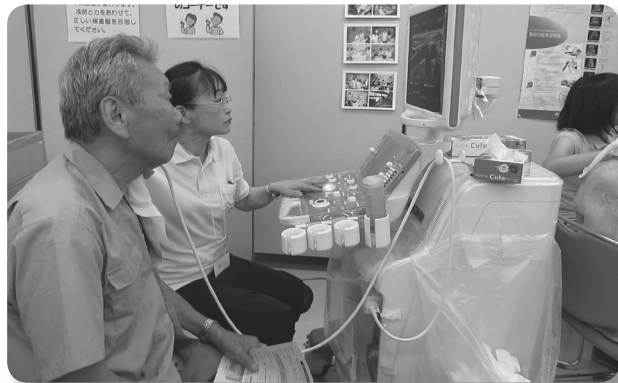


市立吹田市民病院 中央検査部 厚東 良輔

吹 田市で行われている健康展に参加しました。今年で3回目の参加になります。お客さんは市民がほとんどで子供から年配の方まで来られました。今回は検査技師会として肺活量と頸部動脈エコーと血管年齢チェックの3つを体験検査として行いました。普段僕は病理検査を担当して仕事では人と話すことも少ないのですが、健康展では接客ばかりで気を遣ったりもして、なかなか気疲れした一日でした。

また検査技師だけでなく、医師、歯科医、看護師、薬剤師、栄養士、障害ボランティアや婦人会やいろんな団体がこの健康展に参加しており、僕らのような体験コーナーから、展示物、健康のアドバイスやクイズなど、さまざまなことをやっています。そういうものを見て回る時間もいただけるので、結構楽しめます。栄養の取り方のアドバイスを貰ったり、歯の磨き方やアロマなどもやっています。いろんな団体がいろいろ考えて催し物しているのです。

こういった形の健康展は全国でも珍しいらしく規模も大きいそう（参加3回目にして初めて知りました。）、そういう意味では貴重な体験してるんやなぁと思いました。今年で28回目、僕が生まれる以前からやっている歴史もある健康展ですもんね。



家族連れで来ていただいている方もいはって、「パパはこんなことをやっているんだよ」って将来の自分の子供にも見せてあげたいと思いました。

健康展が終わって、ほとんど挨拶もできなかった他施設の検査技師さんとの懇親会も開いて下さって、年上の人、同世代の人、仕事の話や恋愛の話まで、楽しく話せておいしいお酒も飲めてよかったです。

大阪船員保険病院 検査室 西蔭 朋子

阪 急吹田駅の近くにあるメイシアターというところで、「みんなの健康展」が開催されました。様々な医療関連の団体が参加して毎年この時期に行われている恒例のイベントなのですが、恥ずかしながら自転車で行けるような近くに住んでいながら、このような行事があることを今年初めて知りました。

来場者は小さな子供さんから、お年寄りまで、イベント会場は常に多くの人で溢れていました。体力チェックや歯周病チェック、口臭測定、健康の相談コーナーやAED体験コーナーなどもありました。小さいお子様にも興味を持ってもらえるよう、クイズをしたり、かわいいイラストで栄養の説明をしていたりと手作り感満載のコーナーもありました。技師会としては努力性肺活量、指尖容積脈波、頸動脈エコーを行って、それぞれ肺年齢、血管年齢、動脈硬化の具合などの情報をお知らせしました。肺年齢、血管年齢では実際に何歳若かったとか、何歳上だったとか一喜一憂する声が聞かれ、頸動脈エコーでは実際にモニターに映し出されたリアルタイムの自分の頸動脈に驚かれる人、血管がきれいだったと喜ぶ人、壁が厚かったとかブラックがあったとかで落胆される人、反応は人それぞれでしたが、多くの人に自

分の体のこと、ホントにほんの少しですが、知っていただけてよかったなと思いました。私もいろいろ廻って、自分チェックしたかったのですが、どこも盛況であまりじっくり見られなかったのが残念です。

最 後に、私が今回の健康展で仕入れたネタを一つ。みなさん酸触歯ってご存知ですか？食べ物や飲み物で口腔内が酸性になった時、歯の表面が酸によって溶けてしまい、知覚過敏や虫歯の原因になるものなのですが、これがフルーツやお酢など健康によさそうなものや、スポーツドリンクやコーラなどの炭酸飲料も酸性が強く、これらを過剰に摂取すると酸触歯の進行に繋がるとのこと。しかし、好きなものを食べたり飲んだりしたいですよね。そんな時はとり方に注意。酸にさらされて軟化した歯をすぐ磨くのは歯を削ってしまうことになるので、食後30分は歯磨きを控える。また酸触歯は唾液が修復してくれるので唾液が少ない状態が続くことは避ける。頻りに食べたり飲んだりするのは歯にとっても良くないのです。それと酸性飲食物の摂取後はお茶や水で口をすすぐのも予防になるそうです。自分の体、大事にしましょうね。

大阪府済生会中津病院 BML検査室 船木 有香

み んなの健康展の検査ボランティアは今年で4回目です。過去3回は肺活量や身体計測、脳年齢等を担当し楽しませていただきました。今年は頸動脈エコーを任命され、生理検査を離れて半年が経過したこともあり、一抹の不安がありました。しかし、いざ健康展が始まり、エコーを取りだすと、初めは少しまごついたものの、徐々に感覚は戻りました。検査を希望されている方をあまりお待たせしないように心がけました。エコーを取り、画面を見ながらわかりやすいように説明をしました。市民の方と接してみても感じたことは、みなさん健康に対して強い関心をお持ちだということです。一日の長丁場で疲れを感じたものの、多くの方々とふれあい、元気をもらうことができました。

その後の交流会では、元吹田市民病院の城尾先生、国立循環器病研究センターの田中先生より、過去の健康展での貴重なエピソードを聞くことができました。また、健康展で検査ボランティアとして一緒に仕事をした方々と、楽しい時間を過ごさせていただきました。

今回も十分に楽しませていただき、ありがとうございました。



新定款承認のご報告

去る10月13日(木)大臨技事務所にて平成23年度大臨技臨時総会が開催されました。出席者22名、委任状数2,380名、計2,402名となり、正会員数3,189名の3分の2を満し、総会の成立にて新定款の審議が行われ、承認がなされました。出席いただいた皆さま、委任状を提出いただいた皆さまのご理解、ご協力、誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

11月中には新定款を携え、公益社団法人を申請する予定です。

大臨技はこの段階を踏まえ、より良い技師会活動の展開を目指し、内外に貢献していく次第です。今後も引き続きよろしくお願いいたします。

—うめくさ編集後記—

平成23年度 夏季 献血推進活動 報告

当日データ

献 血 車：受付 51名・採血 40名
まいどなんば：受付 110名・採血 87名

去る 8月27日(土)、難波グリーンガーデン(難波駅北側すぐ)にて市民の皆様へ献血へのご協力の呼びかけを行いました。「午前の猛暑」「午後の豪雨」という献血活動史上最悪の天候の中での活動になりましたが、スタッフの気持ちのこもった呼びかけにより、献血車(グリーンガーデン)・献血ルーム(まいどなんば)あわせて、多くの市民の皆様へ献血していただくことができました。本当にありがとうございました。

次回は平成24年2月に実施いたします。公益活動である大事な献血推進活動です。大臨技役員、大臨技会員及び賛助会員の皆様、臨床検査技師教育機関の皆様、ご家族・お友達を誘っていただき、多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。

大臨技 渉外部 (多根総合病院 中央検査部) 北川 篤



献血活動へのご協力ありがとうございました。
大阪医療技術学園専門学校2年生のみなさま
川北 彩夏さん 内山 有里紗さん
世古 裕里さん 中田 有香さん



感想 8月27日に最高気温36度という暑さの中、難波グリーンガーデンで献血推進活動が行われました。私たちはティッシュを配っての呼びかけを行いました。ティッシュをもらう目的だけの方もいましたが、「献血にご協力お願いします」と渡すと、「何歳までできるの?」「どこでやってんの?行くわ」と、関心を持っていただくきっかけとなる場面も多くありました。また、「お疲れ様」「頑張って」といった温かい声を掛けてくださる方もたくさんいて、やりがいを感じました。どうしても献血者の数が減ってしまう夏と冬でも輸血を受ける患者さんの需要に季節は関係ありません。常に一定の血液量を維持するためには地道な活動の積み重ねが必要となります。ボランティア活動というものは活動を行う側の意思だけでは成り立ちません。活動を理解し、参加してくださる方がいて初めて患者さんに必要な血液を届けることができるのです。活動に参加して、学校では学べない貴重な経験をさせていただき、心から感謝しています。

大阪医療技術学園専門学校 2年生 川北 彩夏

皆様のご意見、情報等お待ちしております。
FAX:06-6763-5653 E-mail:imai@osaka-amt.or.jp
郵送の場合は大臨技事務所までご送付ください。

平成23年12月号の原稿メ切は**11月5日(土)**、平成24年1月号は**11月29日(火)**です。